

田代よいとこ - その24 - 田代と戦争

田代地区には、戦争に関する遺跡がいくつかあります。今回は2つご紹介しましょう。

<その1 平山橋>

旧平山橋のことです。まずどんな橋なのか紹介しましょう。

橋の入り口にある説明板によると・・・大正2年(1913)に、全長(112.710m)の1/3にあたる左岸側のみ鉄製、それ以外は木製の姿で開通しました。全てが鉄製になったのは、大正15年です。平成15年1月に平山大橋が開通したことで、人道橋になりました。幅員は4.5mです。平成8年の文化財保護法改正により平成16年11月8日平山橋は国の登録有形文化財(第14-0092号)に指定されました。橋の形式は「三連の曲弦プラットラス橋」というもので、「かながわの橋百選」にも選ばれた名橋です。



このように歴史ある橋ですが、悲劇にも見舞われました。昭和20年7月10日米軍の機銃掃射に遭ったのです。そのときの銃弾の跡(貫通していません)が残っています(左写真)。機会があったらぜひ探してみてください。

<その2 忠霊塔 忠魂碑 奉公碑>

馬渡橋を半原方面へ少し行った左側、小高い場所に「細野区忠霊塔敷地内児童遊園地」があります。さらに石段を登っていくと「忠霊塔」「忠魂碑」「奉公碑」

が見えてきます。これらは、田代地区・半原地区から出征し、戦没された方々の霊を祀り、顕彰する建造物です。



左から
忠霊塔
忠魂碑
奉公碑(手前)
※奥は忠魂碑

忠霊塔は、平成7年8月15日愛川町戦後50周年事業愛川遺族会によって建立されました。日露戦役(日露戦争)7名、支那事変(日中戦争)8名、大東亜戦争(太平洋戦争)156名の戦没者名が刻まれています。特に大東亜戦争の死者が多いのは、それだけ激しい大規模な戦争だったことを物語っています。この学校だよりをお読みの方の中にもこの碑に名を刻まれた方の関係者がきっといらっしゃることでしょ。改めてご冥福をお祈りいたします。

忠魂碑には、篆書(てんしよ：漢字の書体の一つ)で「忠魂碑」と彫られていますが、揮毫したのは日露戦争時の陸軍大将・乃木希典です。「希典書」という文字が見えるでしょうか。乃木さんは頼まれると気軽に揮毫したようで、高峰保育園の裏にある忠魂碑も彼の筆になるものです。

奉公碑は、「陸軍大将 一戸兵衛書」とあり、「御大典記念 昭和3年11月10日 愛川村分会 建之」と刻まれています。一戸兵衛(いちのへひょうえ)は、弘前の出身。乃木さんの信頼厚く、後に学習院院長も務めました。

お願い 今回ご紹介したもの以外にも戦争に関する情報がありましたら、教頭までお知らせください。